

第2日目 12月29日(晴)

文・掛橋智美 写真・後藤、諏訪部

タイム 起床4:00-朝食5:00-出発6:30-仙水峠8:23-駒津峰10:48-直登ルート-甲斐駒12:51~13:05-七丈小屋14:48(泊)

標高差 上り=北沢峠約2036m~甲斐駒2967m=約931m

下り=甲斐駒2976m~七丈小屋約2370m=約606m

朝食を済ませ、出発時間までには時間があつたため、私達はのんびり準備をしていたが、まだ暗い中、他の人達は次々に出発して行った。同じ小屋に泊まった人達は、ほとんどが仙丈岳に行くようであった。

外が少し明るくなったところで、快適な小屋とはお別れで、外でアイゼンを履いた。私が買ったアイゼンに不具合が発覚したため、H姫に借り準備したものだが、このアイゼンは軽く調子がいい。

初めての本格的な雪山である。この山行のために、富士山での雪山訓練も行った。(秋に今回とは逆のルートで甲斐駒に来たが、その時は俄かに雪となり、初アイゼンの経験をしていたが・・・)

ピッケルをザックと背中の中に差せないで、もたもたしていると、すかさず、S部殿が助けてくれた。(昨日から面倒を掛けてばかりで申し訳ないです。感謝。)夜降った新雪のキュッキュという心地良い音が心地よく、今日の山行が始まった。

テント場には沢山のテントが張られていて、白い雪の上にカラフルに映えていた。G殿とS部殿はもちろんテント泊でいろいろな山に行っていて、登りながら今までの経験を話してくれた。雪山山行という初めての経験で、登りきれるのか不安な私には、テントを持つなどの余裕は全くなく、私には凄く遠い人達のように感じ、その話を聞いていた。

テント場を過ぎて直ぐに一人に追い越されたが、ゆっくりゆっくり歩いた。また一人に追い越された。新雪で道はラッセル状態。ラッセルしてくれる前に行く人に感謝しながら、追い付かないように、3人で先頭を交代しながら樹林帯の中をゆっくり歩いた。

樹林帯を抜けるところで、少し休憩した。止まると直ぐに寒くなるため休憩は常に短かった。ここで数人に抜かれるが、前に行くラッセル人数が増えるので感謝していた。樹林帯を抜けると風が強く、冷たく顔に突き刺さった。振り返ると朝日を浴びた仙丈岳が光っていた。その光景に元気をもらい登って行った。

仙水峠までのガラガラした道だったのに雪で埋もれて歩きやすくなっていた。雪にも感謝だった。雪で景色は少し変わっていたが、秋に来た時の景色を思い出しながら歩いていると、強い風もさほど気にならずに仙水峠に着ていた。青い空に大きな摩利支天が素晴らしかった。心の中で何度も「凄い」と叫んでいた。



仙水峠



摩利支天と  
甲斐駒



ラッセルが厳しい上り



駒津峰



再び、樹林帯の中を登って行った。気がつくとも風が止んでいた。木が揺れていなかった。風のない樹林帯の中の登りは暖かかった。深い雪でのピッケルの使い方のアドバイスをもらい試行錯誤しながら、ほどよくラッセルされた道を登って行った。先頭のラッセル隊が休憩している横をラッセルのお礼を言いながら追い越した。

しばらくするとまた追い越され、先頭のラッセル隊は入れ替わりながら頑張っていたが、私達は感謝しながら程よく距離を保ち後ろを歩いていた。樹林帯を抜けてもあまり風はなかった。青空の下、雪が深くなったと感じながらゆっくり登った。振り返って、北岳、間ノ岳、塩見岳、仙丈岳、鳳凰三山の奥に富士山、どれも素晴らしい景色を見て元気をもらった。このときは、何度も振り返って景色を見る余裕がまだ残っていた。

駒津峰に着いた。仙水峠から2時間以上掛かっていた。長かった。ここから見る甲斐駒が大きく、素晴らしかった。心の中で「凄い」とまた叫んでいた。仙水峠から見たあんなに大きかった摩利支天が小さく感じられた。登って来た道を振り返った。これから行く甲斐駒頂上を見上げた。交互に見ると、今まで登って来た道と、甲斐駒の山肌の違いに不安を感じた。「凄すぎる」あれを登れるのだろうか？そう思っている私に気づいたのか、私を引っ張るかのようにG殿は出発した。

駒津峰からは急な下りで始まった。深い雪に足を取られた。時折、顔を出している岩肌にアイゼンを引っかけないように慎重に下った。G殿からも注意の声が掛り、気を引き締めて下った。

下り終わると、いよいよ、山頂に向かっての登りが始まった。先頭グループは左のルート（名前があるのだろうが私には判らない）を登っていた。私達は直登ルートを登った。雪は風に飛ばされるのか少なかった。風はそれほど感じないが、ガスが少し出てきていた。

今まで雪山訓練してきた富士山、今まで来た道とは違って登り難かった。G殿、S部殿からアイゼンでの登り方、ピッケルの使い方のアドバイスが入るが、なかなか言われるようには登れなかった。出来ない自分に嫌気がさしていたがここまで来たら登るしかない。何度もアドバイスをもらいながら、「慎重に、そして大胆に」登るように努めた。「ガシッ、ガシッ」雪氷と岩を踏みしめるイメージで登って行った。

「頂上だ。」G殿が言った。ずっと岩肌を見て緊張しながら登っていたが、見上げると見覚えのある祠に安堵した。「もう少し。」もう一度気を引き締め登った。駒津峰から2時間以上、やっと頂上に立った。

頂上は少しガスが掛かっていたが、ガスの切れ間に八ヶ岳、富士山を見ることが出来た。初め見えなかった山々が見えた瞬間は感動的だ。写真を撮ろうとするが、寒さで電池が減り、1～2枚しか撮れないのが残念だった。もっと頂上で余韻に浸りたいが、寒さには勝てず、それでもこの日一番長い15分程の休憩だった。

七丈小屋に向かって下り始めた。直ぐに、滑りやすそうな斜面が現れ、万が一を考



バックは北岳



厳しい上り・1



厳しい上り・2



甲斐駒頂上

え、初めてザイルを使うことになった。カニ歩きで慎重に下った。経験の浅い私に神経を注いでくれる二人の殿に感謝でいっぱいです。

下りも「慎重に、そして大胆に。」岩肌が出た、急な斜面を何度も通り、鎖場もあった。先を歩くG殿は何度も甲斐駒に来ているため、要所では注意を促してくれるので、有り難かった。深い雪に足を取られ、何度かお尻で滑る状況になりながらも下って行った。「ここからの甲斐駒はいい」G殿の声で振り返ると、違う表情の甲斐駒が素晴らしかった。八ヶ岳も眼下に見えていた。

しばらくして、雪の多い安定した道になると私が先頭へと指示があった。ひたすら足跡に沿って下っていたが急に足跡が途切れた。G殿の指示でそのまま左に迂回するラッセルの練習となった。進もうとするが、腰までの雪で進めないでいた。もがいて余計に雪に埋もれていた。直ぐにルート違いが分かり引き返そうとするが、雪に埋もれてなかなか登れなかった。ラッセルの大変さをつくづく感じ、先頭を行っていたラッセル隊に再び感謝していた。

あまり休憩を取らずにひたすら下った。テントが見えた。安心したのか、思いっきり深みにはまった。私の今日一番の大コケだった。後ろからG殿の笑い声。

七丈小屋に到着した。朝から8時間18分。長い道だった。恒例のG殿との握手で今日の山行は終わった。名物小屋番さんに宿泊の場所を聞くが、直ぐに返事が来なかった。第一小屋と思い、靴を脱ぎ始め、小屋に入る準備をしていたところに、第二小屋との指示が入った。さすが名物小屋番さんだ。すんなり行かない。

第二小屋に荷物を置いて、ビール、お酒、焼酎をまとめ買いして、ゆっくり晚餐会の準備に取り掛かった。ストーブの前に落ち着いた。まずはビールで乾杯。おつまみをつまみながらの団欒。S部殿は酔いが早くもまわったようだった。明日の帰りの運転を条件に、肉で買収され、その肉を私に半分くれた。(なんていい人なのだろう。感謝。)肉は柔らかく美味しかった。S部殿は食欲があまりなく、疲れていたのだろう、早々に眠りについていてた。

私達も19:30が消灯で早めに布団に入った。なかなか部屋が暖まらない中、寒いと思ったG殿が余っていた毛布を夜中にそっと掛けてくれた。(なんていい人なのだろう。感謝。)

今日、登頂出来たのは、私を頑張らせてくれた二人の殿のおかげです。ありがとうございました。

## その他の記述（後藤）

1. 年末の山初日で、駒津峰のラッセルは厳しかった。ただ、元気者の若い衆がガンガン、トップを務めてくれた。お蔭で「前期高齢者」は、ブラブラ後ろをついていくだけ。気持ちのイイ、若い衆でした。
2. 駒津峰で70歳代？とおぼしき方に会った。気になったので駒の上りで年齢を聞いたら

62歳。やっぱり今回、私が最高齢でした。(ま、三浦さんには敵わないが・・・)

3. 黒戸尾根を下るのは我々だけ。やっぱり縦走はイイ。今年は雪が多く、ルンルンで下れた。
4. 七丈小屋の対応は相変わらずだ。記録の毛布の件も、「17度ある(第二小屋は)。沖縄並みだ。これなら寒くない。毛布は一枚でいいだろう」だった。しかし、実際は一枚ではスースーして寒い。毛布がないなら仕方がないが、有り余っていても貸してくれない。23時、トイレに起きた時3枚くすねて、仲間にも掛けてあげた。
5. 男子小トイレは、トイレでなく外でやってくれと言われた。トイレでやると、小が凍って融かすのが大変とのこと。
6. イビキが朝まで続き参った。隣のS氏と思いきや、その隣の輩だったようだ。「イビキ・ハギシリ・ネゴト」は定番だが・・・。
7. 第一・二小屋とも、ほぼ満員。駒往復が多い。中に黄蓮谷氷瀑パーティーもいた。この方々、出発時長々上がり框を陣取り、常識が欠如。



黒戸尾根を下る



クラック岩下り



オッパイ風紋??

おっとと！(笑)



甲斐駒を振り返る



七丈第二小屋内部

